

スポーツを取り巻く現状と課題

1. スポーツに関する社会動向

(1) 国におけるスポーツの動向

①スポーツ基本法の制定

平成 23 年 6 月、昭和 36 年に制定されたスポーツ振興法が全部改正され、国及び地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めるスポーツ基本法が制定されました。具体的には、スポーツに関する施策の策定、スポーツを行う者の権利利益の保護、心身の健康の保持増進、安全の確保に配慮しつつ、スポーツの推進に主体的に取り組むよう努めることなどが明記されています。

また、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であるとされ、スポーツは、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上など、国民生活において多面にわたる役割を担うとされています。

②「スポーツ基本計画」の策定

スポーツ基本法第 9 条の規定に基づき、同法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現をめざすための重要な指針として、平成 24 年 3 月に「第 1 期スポーツ基本計画」が策定され、令和 4 年 3 月には「第 3 期スポーツ基本計画」が策定されました。

「第 3 期スポーツ基本計画」では、国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すには、以下の 3 つの新たな視点が必要であるとうたわれています。

■「第 3 期スポーツ基本計画」の視点

つくる／はぐくむ	あつまり、ともに、つながる	誰もがアクセスできる
社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを『つくる／はぐくむ』という視点	様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』、『ともに』活動し、『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点	性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、全ての人々がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点

(2) 大阪府におけるスポーツの動向

①「大阪府スポーツ推進計画」の策定

大阪府は、スポーツ基本法に基づく地方スポーツ推進計画として、平成 24 年 4 月に「大阪府スポーツ推進計画」を策定し、令和 4 年 3 月には現行計画となる「第 3 次大阪府スポーツ推進計画」を策定しました。

「第 3 次大阪府スポーツ推進計画」では、『「スポーツ楽創都市・大阪」～スポーツとともに成長し、楽しさあふれる大阪へ～』をめざすべきスポーツ像として掲げ、万博や SDGs の視点を盛り込み、トップスポーツチームなどの魅力的なスポーツ資源を、観光や食といった大阪の強みと組み合わせ、最大限に活用し、「楽しさ」をキーワードに、スポーツとともに人とまちが成長する施策を展開するための取組を進めていくこととしています。

■「第 3 次大阪府スポーツ推進計画」の施策の具体的方向性

1 の柱 誰もが地域で楽しむスポーツ・健康づくり	2 の柱 成長するスポーツで楽しいまちづくり
● ライフステージに応じた機会の提供 ● 障がい者スポーツの推進 ● スポーツの習慣化と健康づくり ● 地域でスポーツを楽しむ環境づくり ● スポーツコミッションによる生涯スポーツの推進	● 様々な形のスポーツツーリズムの推進 ● スポーツコミッションによる活力あるまちづくりの推進 ● 産業連携・技術活用による成長するスポーツづくり ● 人とまちを活性化するスポーツイベントの展開

②大規模スポーツイベントの開催

令和 3 年には、新型コロナウイルス感染症の影響下で東京 2020 オリンピック・パラリンピックが国内で開催され、社会全体でスポーツへの関心が大きく高まりました。

大阪府では、令和 9 年には、延期となった「ワールドマスタースゲームズ関西」の開催が予定されており、大阪・関西を舞台にしたこれらの大規模なスポーツイベントは、スポーツの魅力を一層高め、大阪の活力を生み出し、スポーツの力でまちづくりを進めていく絶好の機会となっています。

2. 吹田市における現状と課題

令和4年度（2022年度）に実施した「吹田市のスポーツについてのアンケート調査」や、その他各種統計データ等から、市民のスポーツに関する現状を整理しました。

（1）吹田市の人口構造

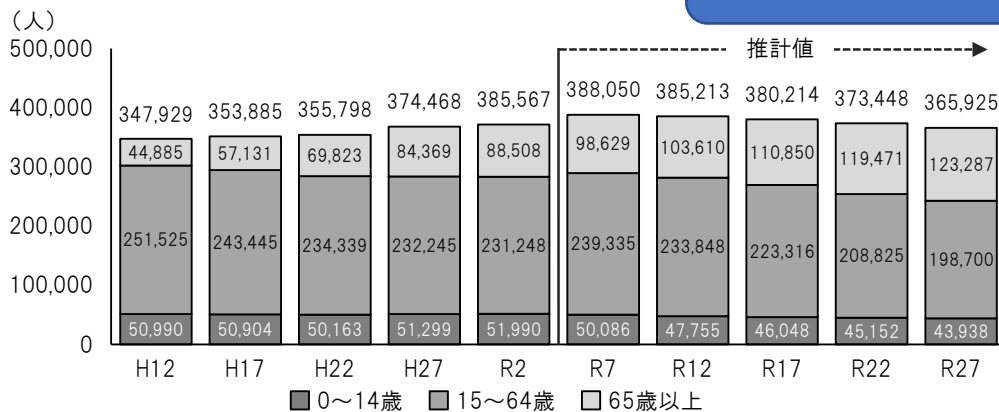
①人口の推移と推計

○本市の人口は増加傾向で推移しており、令和2年時点で総人口は約39万人となっています。また、令和2年時点の高齢化率は23.8%となっています。

○国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、本市の人口のピークは令和7年となっており、それ以降は減少に転じる予測となっています。また、高齢化率は上昇傾向が続き、20年後の令和22年には30%を超える予測となっています。

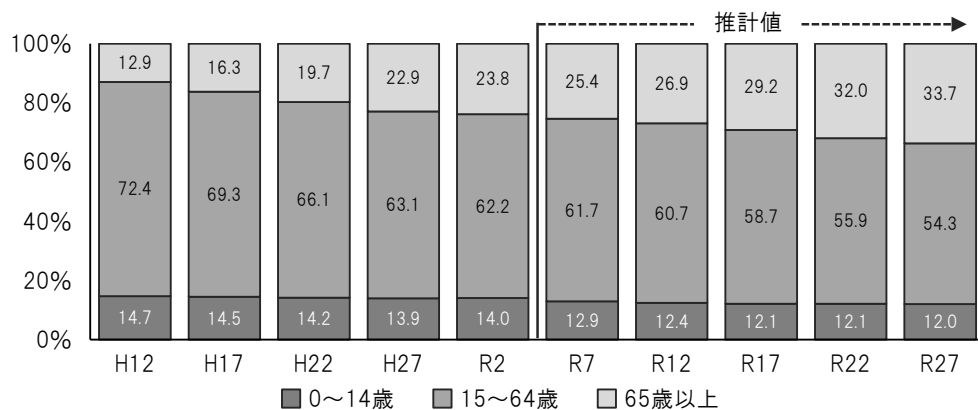
人口推計については、吹田市総合計画の見直しを受け修正予定

■年齢3区分人口の推移と推計



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
※総人口は年齢不詳を含めているため、各年齢の合計値とは一致しない

■年齢3区分人口割合の推移と推計



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
※年齢不詳を除いた割合を掲載

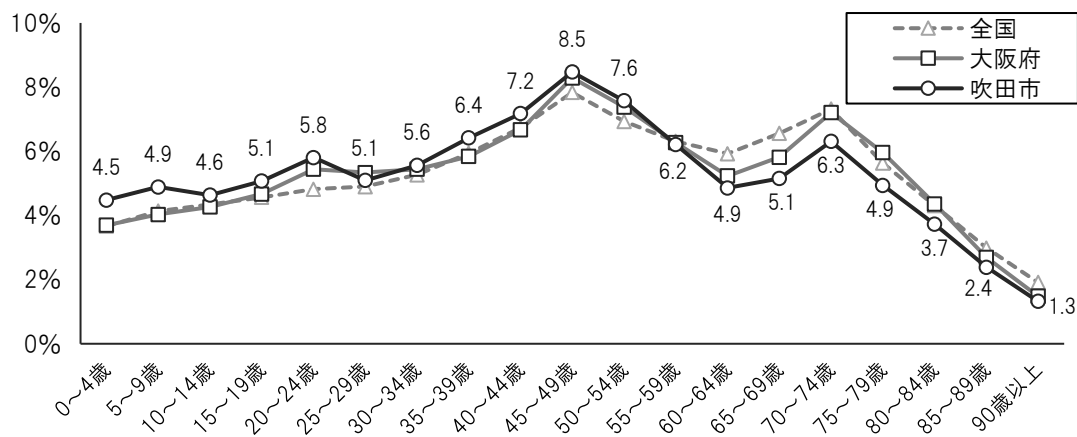
②人口構造の比較

ア) 年齢別人口の比較

○年齢5歳区分別人口が総人口に占める割合を国や府と比較すると、本市は0～24歳、35～44歳の割合が高く、60歳代以上の割合が低くなっています。

○高齢化率については、中核市の中では5番目に低くなっており、全国的にみても比較的若い世代の多いまちであることがわかります。

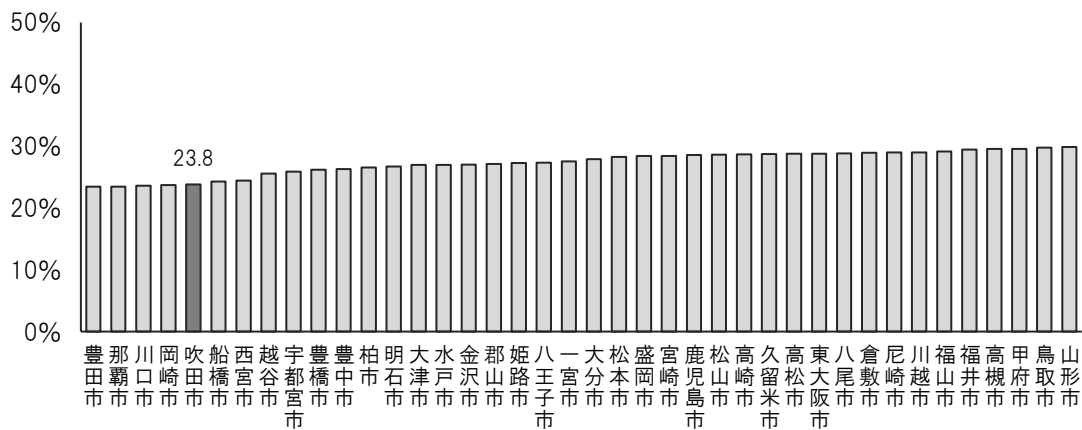
■年齢5歳区分人口割合の比較（令和2年）



資料：総務省「国勢調査」

※年齢不詳を除いた割合を掲載

■高齢化率の比較（令和2年、中核市のうち下位40市を掲載）



資料：総務省「国勢調査」

※年齢不詳を除いた割合を掲載

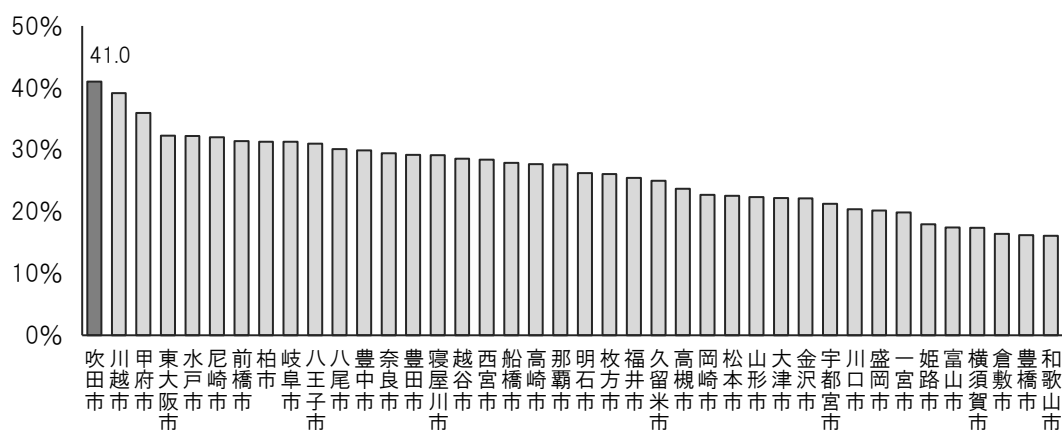
イ) 流入・流出人口の比較

○本市の昼間人口に占める流入人口（日中に市外から訪れる人口）の割合は41.0%で、全国中核市の中で最も高くなっています。

○また、夜間人口に占める流出人口（日中に市外で活動している人口）の割合は44.2%で、全国中核市の中で2番目に高くなっています

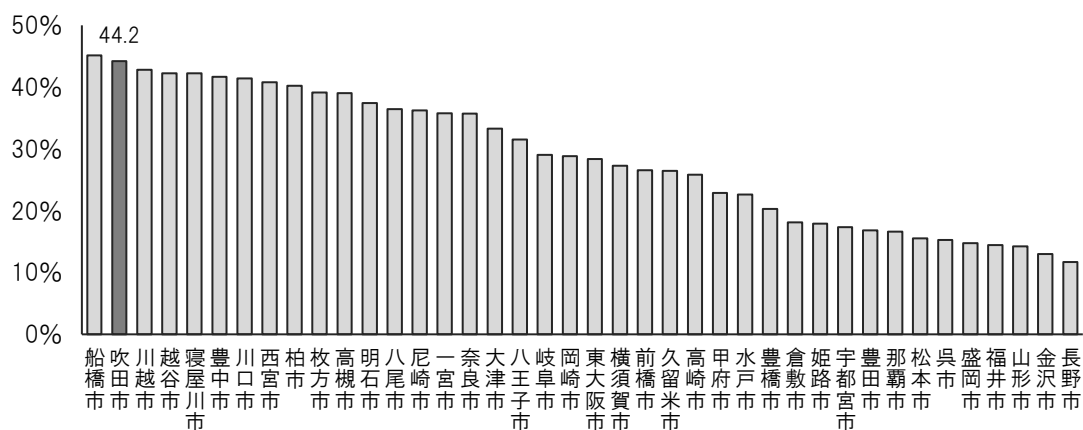
○人口の流出入が非常に活発で、日中は通勤や通学のために市外に出ている方が他市と比べても多いことが本市の特性となっています。

■昼間人口に占める流入人口の割合比較（令和2年、中核市のうち上位40市を掲載）



資料：総務省「国勢調査」

■夜間人口に占める流出人口の割合比較（令和2年、中核市のうち上位40市を掲載）



資料：総務省「国勢調査」

(2) 吹田市のスポーツの現状

①運動・スポーツをすることについて

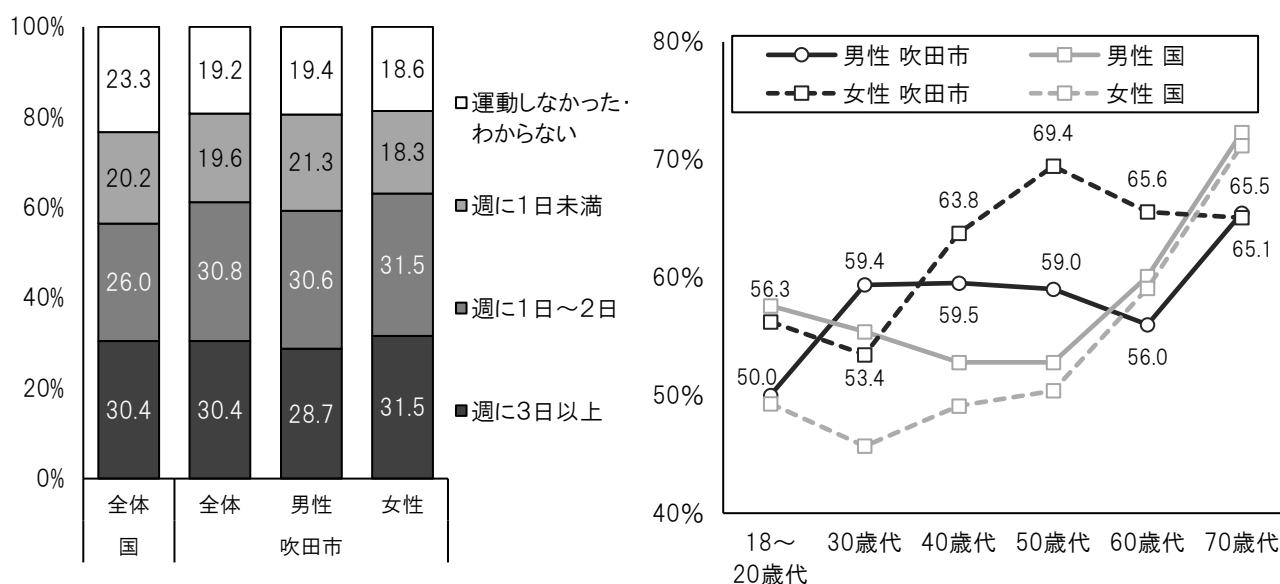
ア) 運動・スポーツの実施状況

○運動・スポーツの実施頻度をみると、『週に1日以上』（「週に3日以上」と「週に1日～2日」の合算）は61.2%となっています。国調査と比較すると、『週に1日以上』は本市が4.8ポイント上回っています。

○『週に1日以上』と回答した割合を男女年代別でみると、男性は18～20歳代から30歳代にかけて上昇し、それ以降は60歳代までほぼ横ばいが続く傾向となっています。60歳代まで仕事や子育てなどにより十分な時間が取れない一方で、70歳代以降は健康づくりへの関心が高まり、十分な時間があるために運動・スポーツの実施頻度が高まっているものと考えられます。

○一方で女性については、30歳代で割合が低下するものの、それ以降は上昇に転じる傾向となっています。なかでも40から50歳代まででは国調査を大きく上回っており、運動への意識の高さがうかがえます。

■運動・スポーツの実施頻度（左：全体・男女別、右：男女年代別、『週に1日以上』の割合）



※国調査はスポーツ庁「令和3年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（令和3年11月調査）」に基づく
 ※国調査と比較する場合、本市調査結果は不明・無回答を除外した値を掲載している

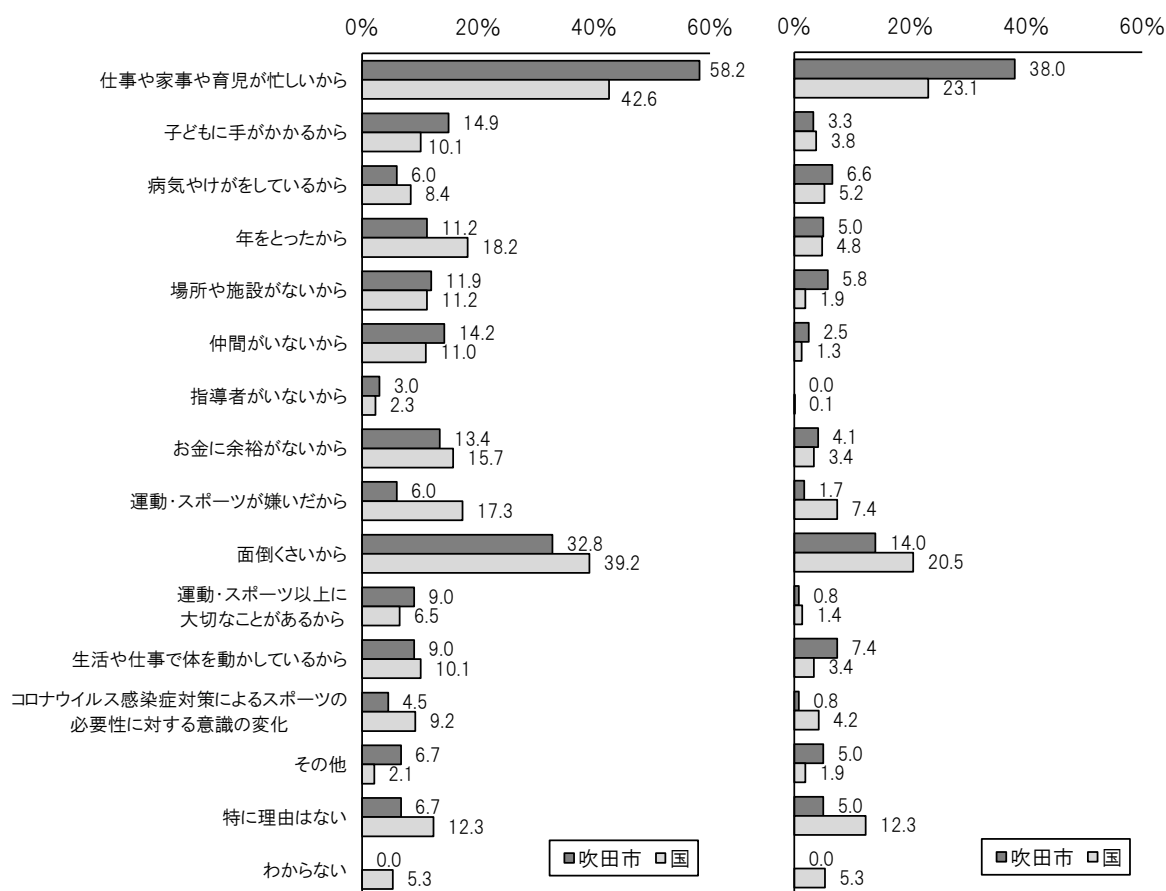
イ) 運動・スポーツ実施の阻害要因

○運動・スポーツを実施できなかった理由については、仕事や家事・育児が忙しいことや面倒くさいといった理由が多くなっています。

○国調査と比較すると、忙しいという理由が多くみられる一方、面倒くさい、運動・スポーツが嫌いという回答は少なくなっています。

○市内外に通勤・通学する人口の多い本市の特性として「忙しい」という回答が多くなっていることがうかがえます。一方で、運動・スポーツをしたくないという意向は比較的低くなっていることもうかがえます。

■運動・スポーツを実施できなかった理由（左：全体・できなかった理由、右：全体、最も大きな理由）



ウ) 今後の運動・スポーツに対する意向

○今後実施してみたい運動・スポーツは、「ウォーキング」や「トレーニング」、「登山・ハイキング・トレイルランニング」など、ひとりでも始められ、健康づくりにつながる種目の回答の割合が高くなっています。

○今後の運動・スポーツ実施意向をみると、18～20 歳代、30～40 歳代の「あまりしていないが、今後する予定である」の割合が 20%以上となっており、スポーツを行う意欲が高いことがうかがえます。女性については、30 歳代で「している」が低く、「あまりしておらず、今後もするつもりはない」が高くなっており、運動・スポーツに対する意向が低いことがうかがえます。

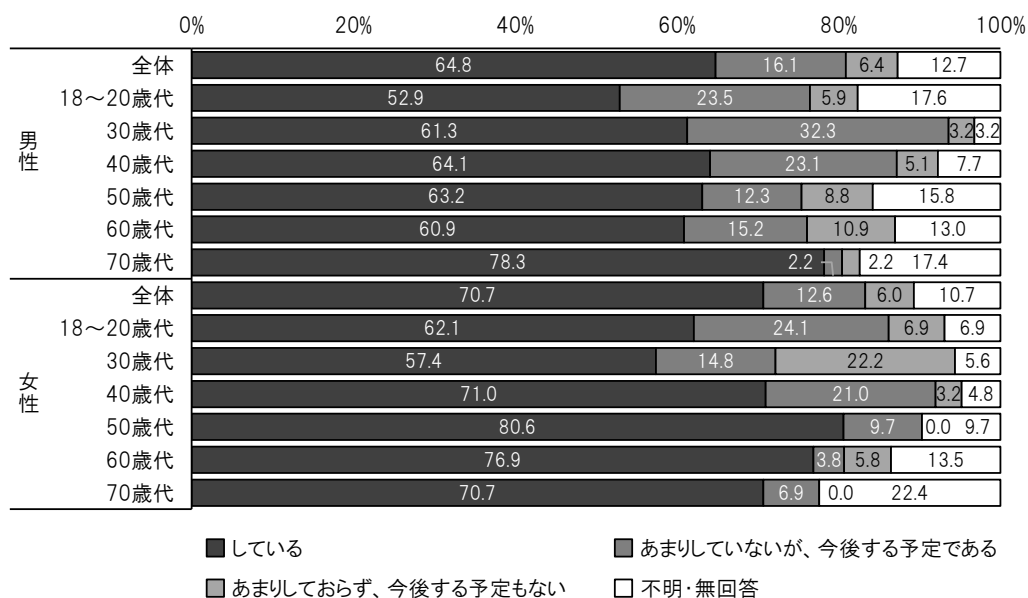
■今後実施してみたい運動・スポーツ（全体・男女別）

全体			男性			女性		
1	ウォーキング	16.2	1	ウォーキング	19.0	1	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	21.4
2	トレーニング	16.2	2	トレーニング	13.2	2	ウォーキング	18.3
3	登山・ハイキング・トレイルランニング	14.4	3	登山・ハイキング・トレイルランニング	13.2	3	登山・ハイキング・トレイルランニング	15.2

■今後実施してみたい運動・スポーツ（年代別）

18～20歳代			30歳代			40歳代		
1	キャンプ・オートキャンプ	21.6	1	キャンプ・オートキャンプ	22.2	1	トレーニング	19.6
2	登山・ハイキング・トレイルランニング	17.6	2	トレーニング	21.1	2	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	17.9
3	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	15.7	3	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	18.9	3	ランニング・ジョギング	17.0
50歳代			60歳代			70歳代		
1	トレーニング	22.2	1	ウォーキング	18.9	1	ウォーキング	15.1
2	ウォーキング	20.0	2	登山・ハイキング・トレイルランニング	17.1	2	体操	11.8
3	登山・ハイキング・トレイルランニング	20.0	3	トレーニング	14.4	3	アクアエクササイズ・水中ウォーキング	6.7

■今後の運動・スポーツ実施意向（男女年代別）

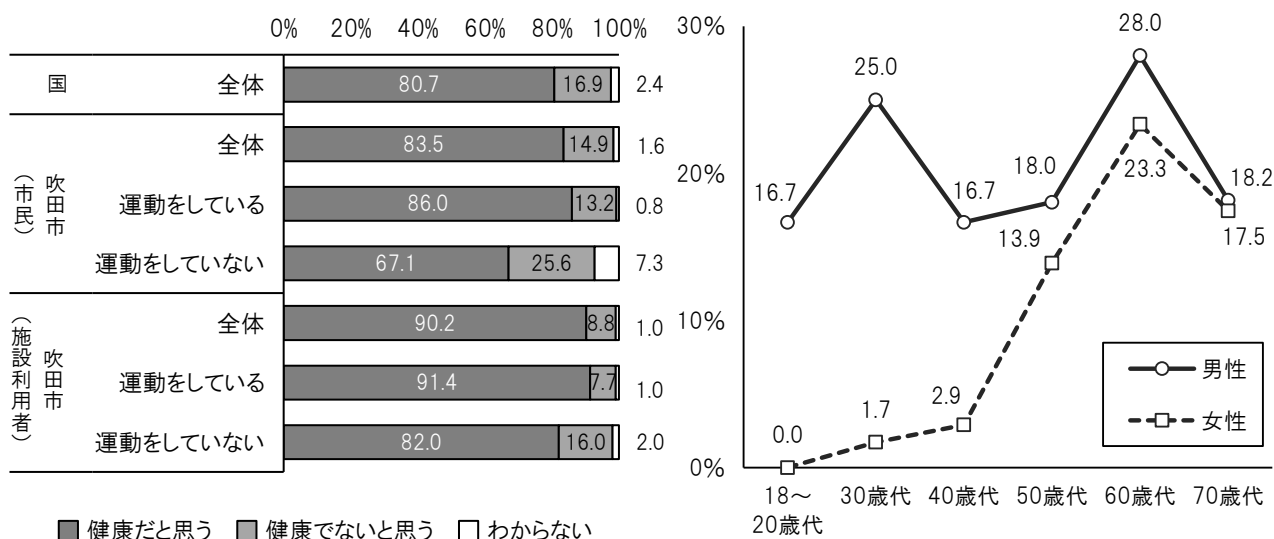


エ) 運動・スポーツと健康の関係性

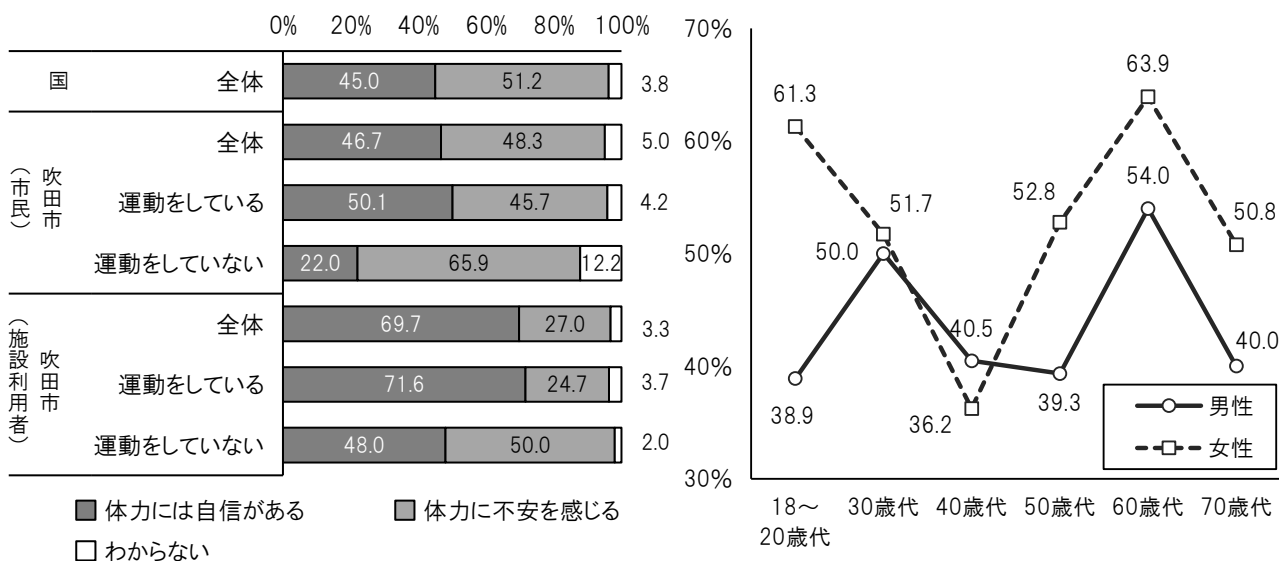
○主観的健康状態は「健康だと思う」が83.5%で、国調査を2.8ポイント上回っています。運動実施状況別でみると、運動をしていない人はしている人と比較し、健康でないと感じている傾向があります。また、男女年代別でみると、18～20歳代、30～40歳代では、女性が健康だと思う割合が高いのに対し、男性は健康に対する不安が高くなっていることがうかがえます。

○体力に対する不安は、「体力には自信がある」が46.7%で、国調査を1.7ポイント上回っています。男女年代別でみると、多くの年代において男性よりも女性において体力に不安を感じている一方、40歳代のみ女性の健康に対する不安が低くなっています。

■主観的健康状態（左：全体・運動実施状況別、右：男女年代別、「健康でないと思う」の割合）



■体力に対する不安（左：全体・運動実施状況別、右：男女年代別、「体力に不安を感じる」の割合）

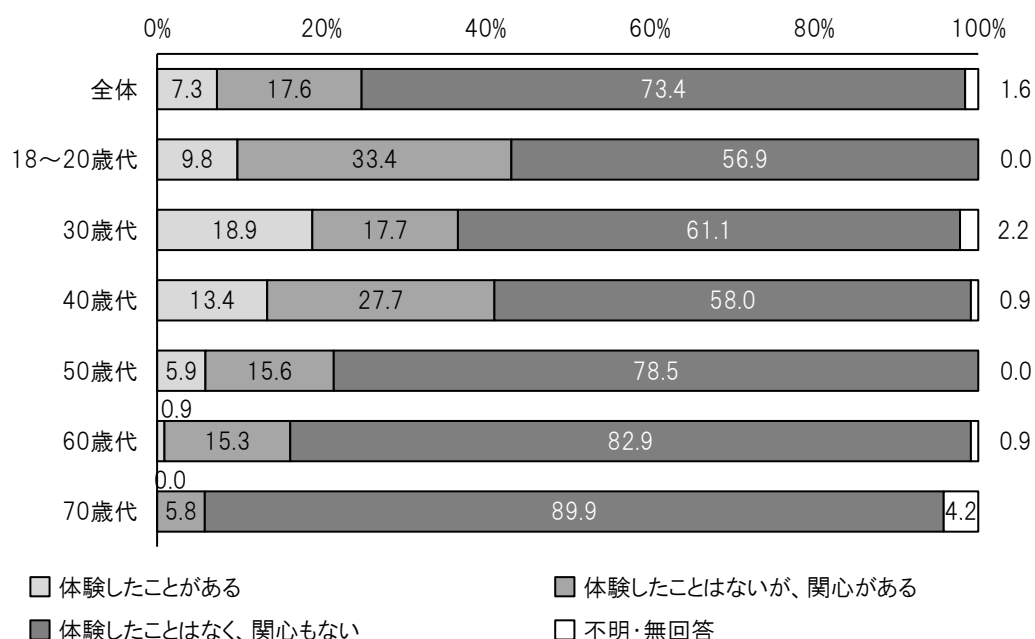


オ) 新しいスポーツに対するニーズ

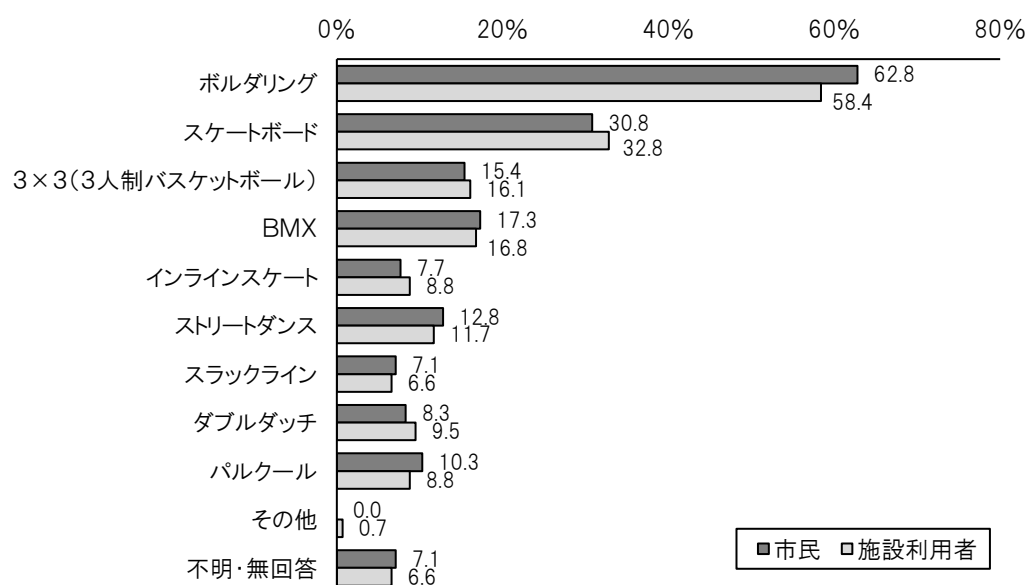
○アーバンスポーツの体験や関心の程度をみると、全体の 7.3%が「体験したことがある」と回答しており、「体験したことがある」と「体験したことはないが、関心がある」をあわせると約 25%の方が関心を持っていることがわかります。年代別でみると、18～20 歳代、30～40 歳代において一定の関心があることがわかります。

○体験したことがある、または体験してみたいアーバンスポーツについては、ボルダリングやスケートボード、BMXなど、東京 2020 オリンピックで採用された種目の関心が高くなっていることがうかがえます。

■アーバンスポーツの体験・関心の程度（市民調査：全体・年代別）



■体験したことがある・体験してみたいアーバンスポーツ（市民調査、施設利用者調査：全体）



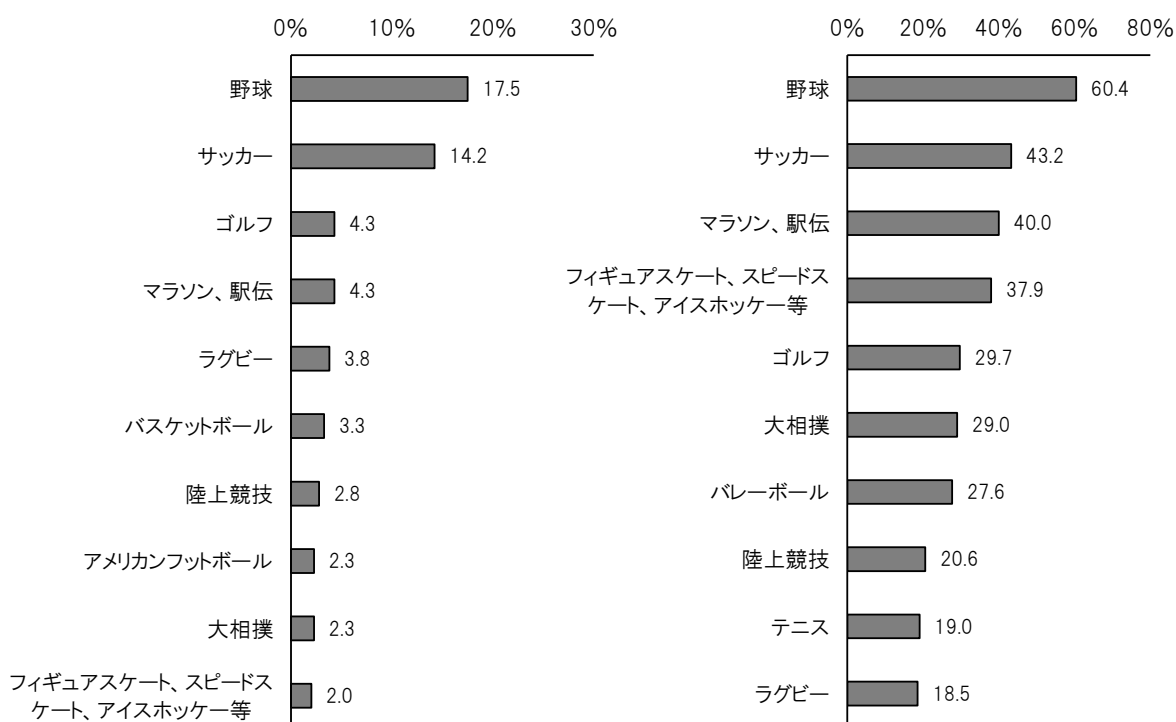
②運動・スポーツをみることについて

ア) スポーツ観戦の経験

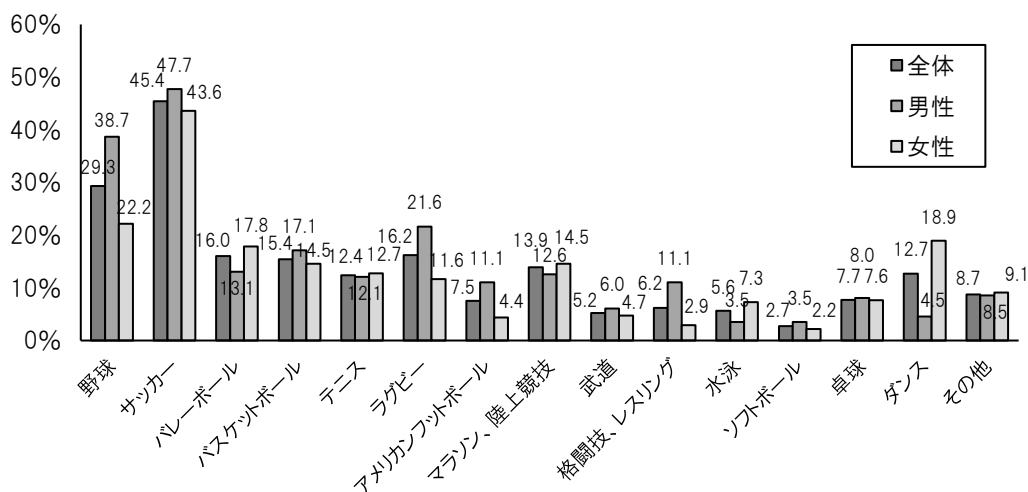
○スポーツ観戦の経験として、現地での観戦については「野球」や「サッカー」、「ゴルフ」などが高くなっています。テレビやインターネットでの観戦についても「野球」や「サッカー」が現地観戦と同様に上位となっているほか、「マラソン、駅伝」や「フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー等」が現地観戦と比べて順位が高くなっています。

○吹田市内で観戦したいスポーツについては、男女ともに、「サッカー」が最も高く、次いで「野球」となっています。また、男性では「ラグビー」、女性では「ダンス」が高くなっています。

■ 1年間のスポーツ観戦の経験（上位10件、左：全体・現地で観戦、右：全体・テレビやネットで観戦）



■吹田市内で観戦したいスポーツ（全体・男女別）



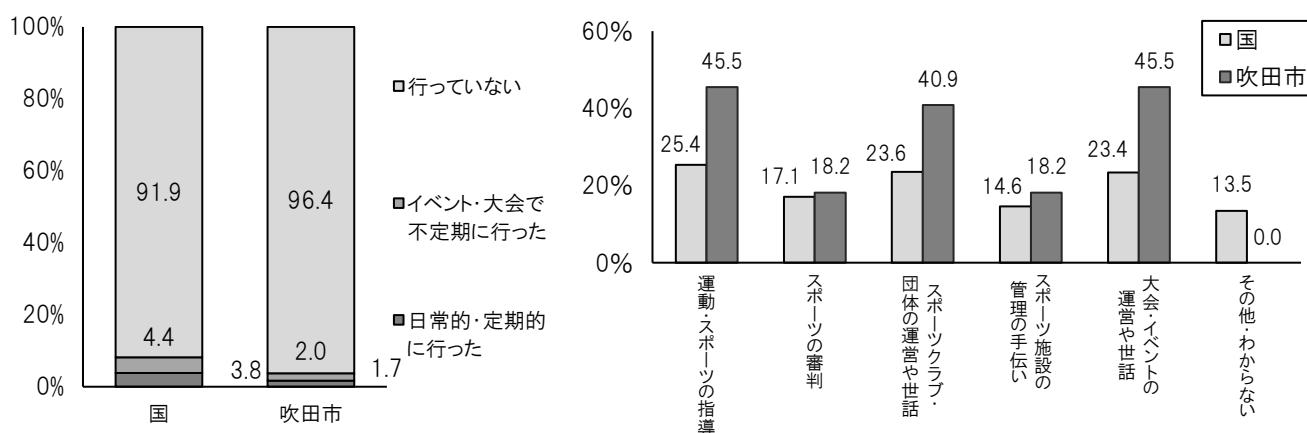
③運動・スポーツをささえることについて

ア) 運動・スポーツに関するボランティア活動

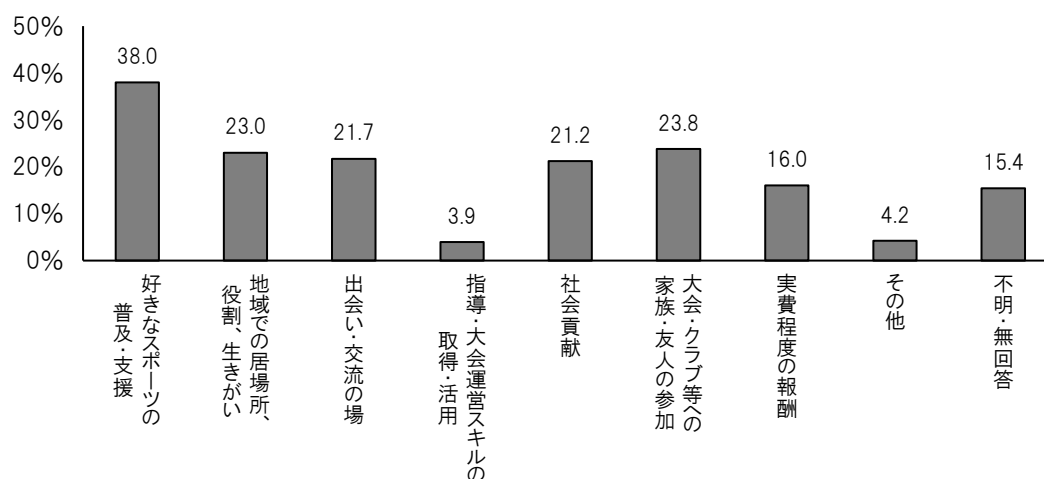
○運動・スポーツのボランティア参加状況をみると、『行った』（「日常的・定期的に行った」と「イベント・大会で不定期に行った」の合算）は3.7%で、国調査を4.5ポイント下回っています。具体的な活動内容としては、「運動・スポーツの指導」や「スポーツクラブ・団体の運営や世話」、「大会・イベントの運営や世話」が国調査に比べて高くなっています。

○ボランティア活動を行う・続けるためのきっかけについては、「好きなスポーツの普及・支援」や「大会・クラブ等への家族・友人の参加」が高くなっています。

■ボランティア参加状況と活動内容（左：参加状況・全体、右：活動内容・全体）



■ボランティア活動を行う・続けるためのきっかけ（全体）

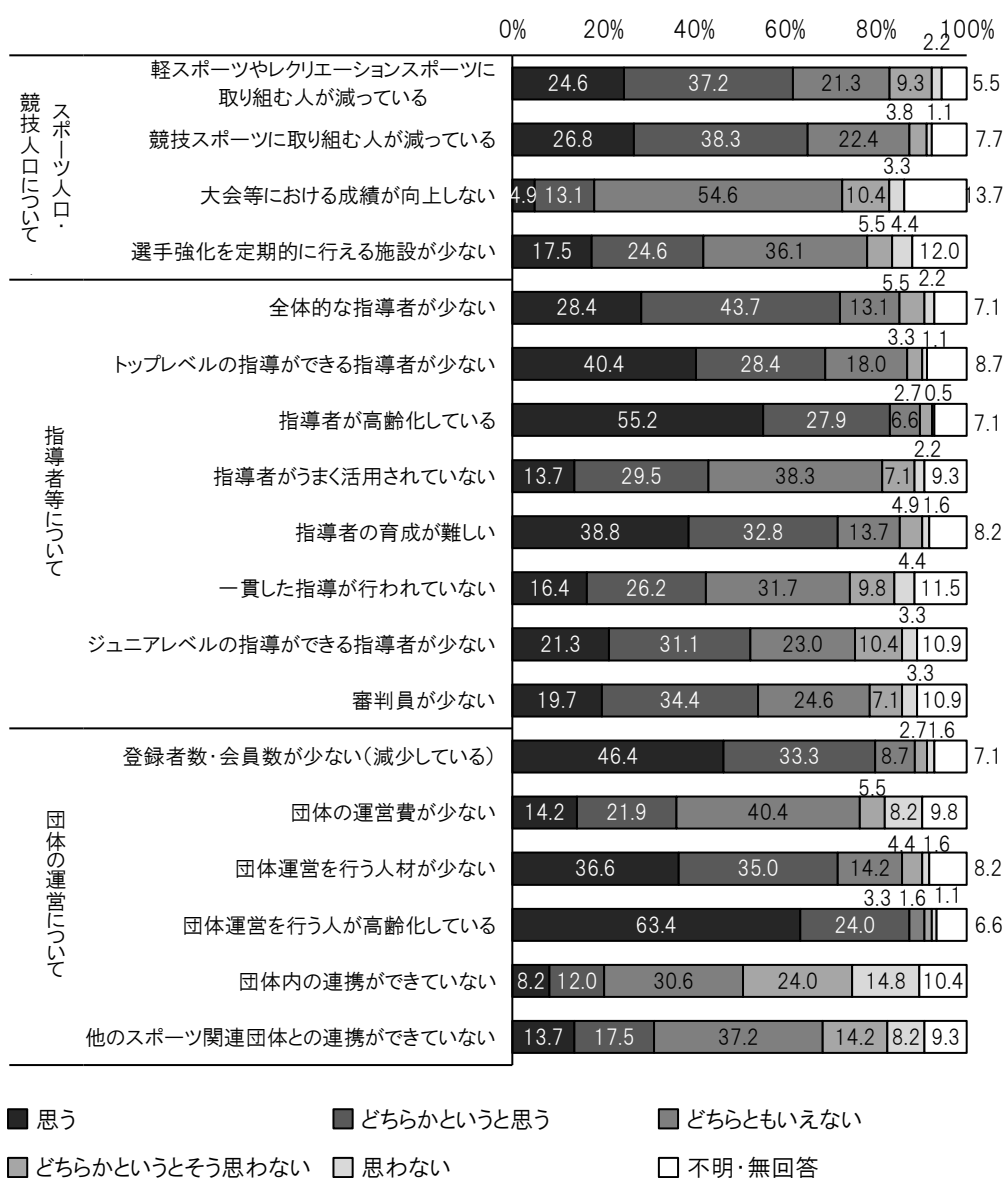


イ) 関係団体の課題認識

○スポーツ人口や指導者等、団体の運営などの課題について、『思っている』（「思う」と「どちらかというと思う」の合算）をみると、「指導者が高齢化している」や「登録者数・会員数が少ない（減少している）」、「団体運営を行う人が高齢化している」など、団体運営に携わる人材の減少や高齢化の問題が高くなっていることがわかります。

○『思っている』のうち、「思う」を回答した割合に注目すると、人材の減少・高齢化に加え、「トップレベルの指導ができる指導者が少ない」「指導者の育成が難しい」「全体的な指導者が少ない」など、指導者の確保・育成について強い課題意識を持っている団体が多いことがうかがえます。

■関係団体の課題認識（全体）



④スポーツ施設の利用状況

ア) 市内の公共スポーツ施設の利用状況

○平成 30 年度に発生した自然災害の影響で利用中止となり、平成 30 年 6 月以降、利用者が減少している施設があります。また、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大した令和 2 年度は、ほとんどの施設において利用者数が大幅に減少しています。

■市内公共スポーツ施設の利用者数の推移（単位：人）

年度	片山 市民体育館	北千里 市民体育館	山田 市民体育館	南吹田 市民体育館	目黒 市民体育館	合計
H28	139,164	119,902	163,741	88,125	155,130	666,062
H29	142,048	111,839	165,402	90,697	156,635	666,621
H30	146,126	62,153	96,121	78,625	153,226	536,251
R1	123,967	50,054	103,509	83,471	146,743	507,744
R2	69,572	29,349	54,790	48,726	92,305	294,742

年度	中の島スポーツグラウンド			桃山台スポーツグラウンド	
	野球場	テニス	多目的	野球場	テニス
H28	35,739	36,616	—	34,813	26,809
H29	36,158	35,617	—	33,606	25,825
H30	20,378	26,257	5,755	39,341	26,531
R1	22,117	25,842	3,050	33,181	23,234
R2	24,496	21,193	3,174	23,719	19,636

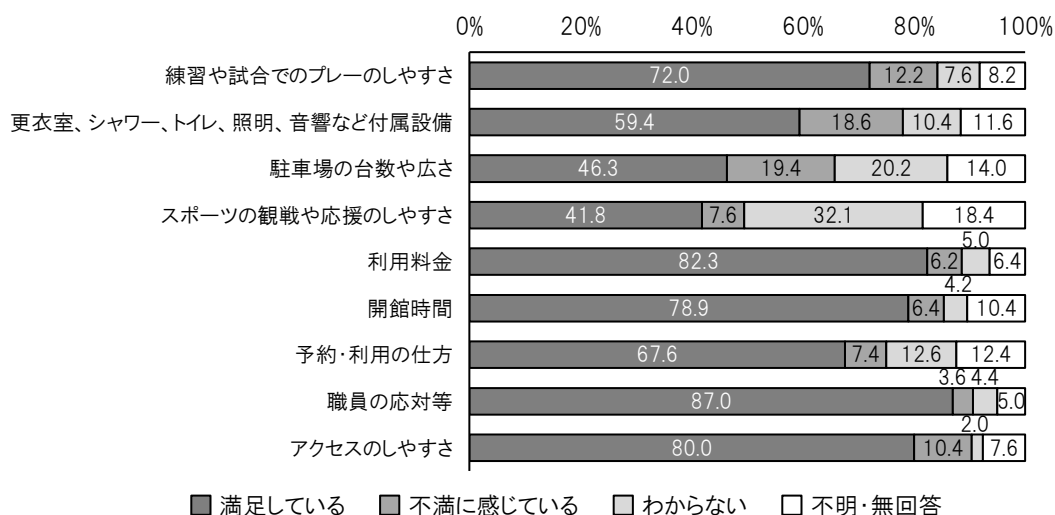
年度	山田スポーツグラウンド		高野台スポーツ グラウンド	南正雀スポーツ グラウンド
	野球場	テニス	野球	テニス
H28	13,065	17,121	33,150	37,223
H29	10,075	16,834	31,824	48,855
H30	5,286	16,327	49,841	43,909
R1	6,640	15,765	27,944	40,835
R2	7,645	12,947	22,332	41,130

年度	武道館	総合運動場	片山市民プール	北千里市民プール
H28	99,286	116,804	234,559	48,641
H29	100,091	124,263	218,647	47,116
H30	55,410	127,259	58,536	9,784
R1	85,521	58,614	70,261	37,103
R2	42,005	88,836	68,870	0

イ) スポーツ施設に対する満足度

○市内スポーツ施設の満足度については、全体では「職員の応対等」や「利用料金」、「アクセスのしやすさ」について満足しているという回答が高くなっているが、「更衣室、シャワー、トイレ、照明、音響など付属施設」や「駐車場の台数や広さ」については不満に感じているという割合が高くなっています。

■利用施設の満足度（全体）



■利用施設の満足度（「満足している」の割合、回答時利用施設別）

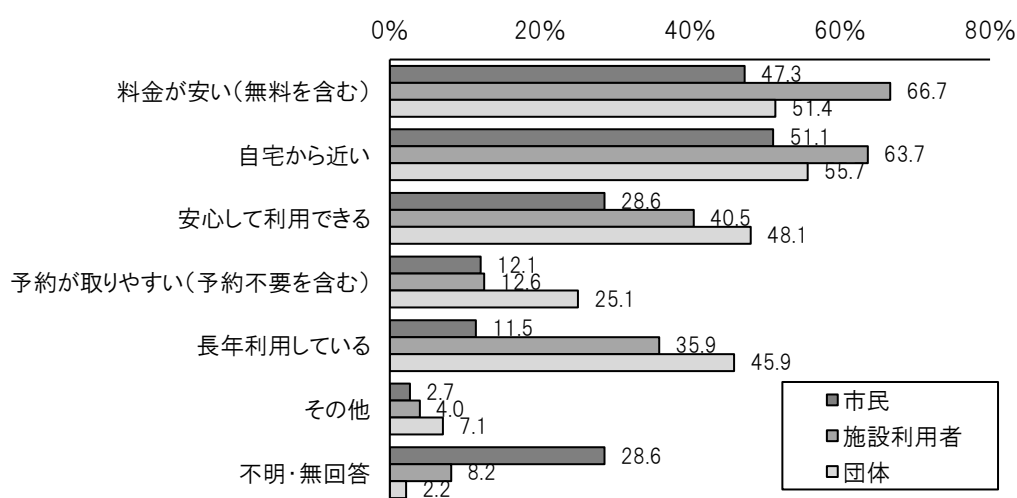
単位：%	練習や試合での プレーのしやすさ	更衣室、シャワー、トイレ、 照明、音響など付属設備	駐車場の台数や広さ	スポーツの観戦や 応援のしやすさ	利用料金
片山市民体育館	64.7	53.0	27.4	37.2	82.4
北千里市民体育館	78.4	64.6	57.0	35.4	80.0
山田市民体育館	68.0	49.1	45.2	26.4	94.4
南吹田市民体育館	71.4	68.6	60.0	51.4	80.0
目黒市民体育館	88.7	75.0	75.0	61.4	100.0
中の島スポーツグラウンド	77.4	32.3	29.0	35.5	96.8
桃山台スポーツグラウンド	45.0	45.0	15.0	40.0	60.0
山田スポーツグラウンド	90.0	70.0	70.0	53.3	93.3
南正雀スポーツグラウンド	77.8	72.2	22.2	27.8	100.0
総合運動場	68.2	63.4	48.8	51.2	78.0
武道館	85.4	85.4	39.0	61.0	73.2
片山市民プール	58.5	51.3	43.9	31.7	80.5
単位：%	開館時間	予約・利用の仕方	職員の応対等	アクセスのしやすさ	
片山市民体育館	80.4	58.8	78.5	76.5	
北千里市民体育館	87.7	63.1	89.2	84.6	
山田市民体育館	77.4	69.8	100.0	86.8	
南吹田市民体育館	91.5	65.7	82.8	74.3	
目黒市民体育館	97.7	84.0	97.8	90.9	
中の島スポーツグラウンド	67.7	87.1	93.5	93.5	
桃山台スポーツグラウンド	80.0	60.0	70.0	80.0	
山田スポーツグラウンド	76.7	76.7	86.7	90.0	
南正雀スポーツグラウンド	83.3	94.4	94.4	88.9	
総合運動場	80.5	56.1	90.2	80.5	
武道館	78.1	68.3	90.3	75.6	
片山市民プール	65.8	68.3	90.2	70.8	

ウ) 施設利用に対する市民ニーズ

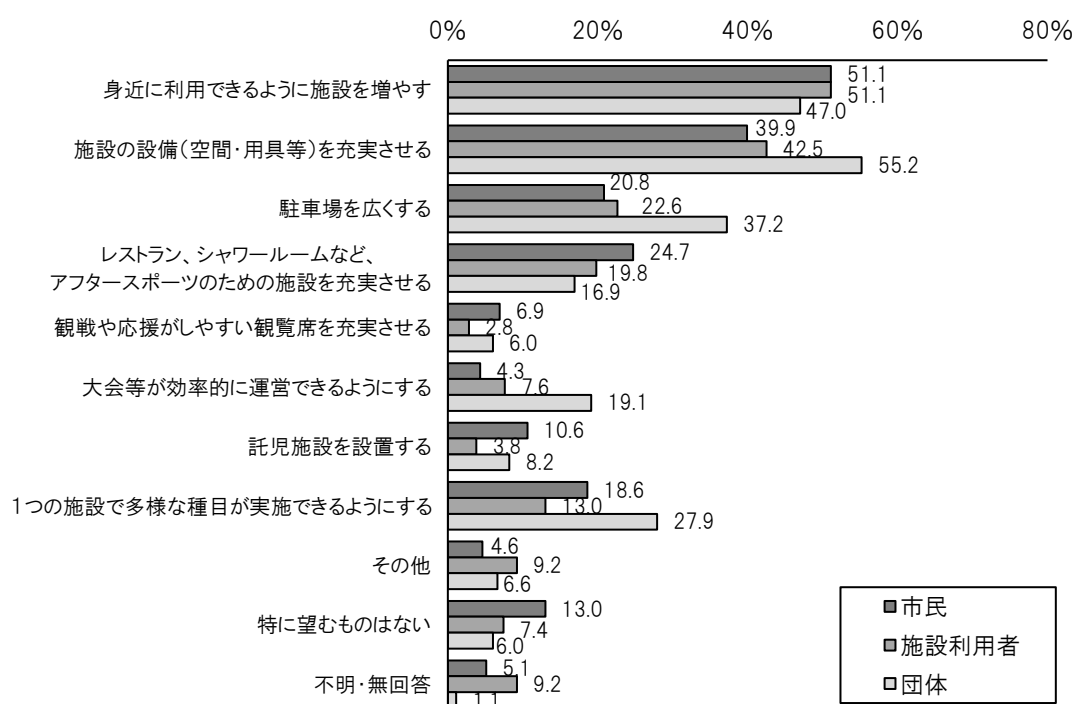
○施設を利用する際に考慮する条件として、全体では「料金が安い(無料を含む)」や「自宅から近い」が高くなっています。なお、施設利用者や団体など、施設の利用頻度の高い調査対象の場合、「安心して利用できる」や「長年利用している」が高くなっています。

○施設のあり方については、全体では「身近に利用できるように施設を増やす」が高くなっていますが、施設利用者や団体など、施設の利用頻度の高い調査対象の場合、「施設の設備(空間・用具等)を充実させる」や「駐車場を広くする」の回答割合が若干高くなっています。なお、関係団体では「大会等が効率的に運営できるようにする」や「1つの施設で多様な種目が実施できるようにする」といった回答の割合も高くなっています。

■施設利用時に考慮する条件（市民・施設利用者・関係団体：全体）



■施設のあり方について（市民・施設利用者・関係団体：全体）



(3) スポーツ推進に向けた課題の整理

①運動・スポーツをすることに関する課題

○気軽に運動・スポーツに取り組める環境づくり

本市では、週1回以上のスポーツ実施率が国より高く、現役で働いている世代でも多くの方がスポーツに取り組んでいることがうかがえますが、さらなる運動実施率の向上を目指すには、ライフスタイルにあわせて気軽にスポーツに取り組めるような機会や環境を提供することが大切です。

○子育て世代の運動・スポーツ参加の促進

仕事や家事と育児の両立のためにスポーツに取り組む時間が取れない方に対して、子育てをしながらでもスポーツにふれる機会をつくるために、親子で参加できるイベントなど、子育ての視点も踏まえたスポーツの機会提供を進めることが大切です。

○生涯現役の健康づくりのための運動・スポーツの普及

50歳代を過ぎると運動実施率が低下する傾向があります。実施できない理由として身体の悪化を挙げる回答がみられることより、若い頃から運動を習慣化することで健康を維持するなど、早期から介護予防の視点も踏まえたアプローチを進めていくことが重要となります。

○新しいスポーツに対するニーズへの対応

近年は、アーバンスポーツなどの新たなスポーツが注目されています。アーバンスポーツについては、オリンピックの種目としても採用され、競技人口も増えつつあるなか、本市においても20～40歳代の比較的若い世代において一定の関心がみられることより、活動の活性化に向けては、実施できる環境づくりを進めることが求められます。

○市民ニーズを踏まえた施設のあり方の検討

平成30年度に発生した自然災害や令和元年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、市内のスポーツ施設は利用者数が大幅に減少しています。市民の利便性や利用率の向上に向け、市民ニーズを把握しながら、施設の多種目・多目的での利用などの柔軟な運用、設備の充実等、適切な施設のあり方を示すことが求められています。

②運動・スポーツをみることにに関する課題

○まちの魅力向上も視野に入れたスポーツチームとの連携

スポーツ観戦の経験としては、現地観戦でもテレビ等での観戦も野球やサッカーが多くなっています。特に、吹田市内で観戦したいスポーツとしてサッカーを挙げる意見が男女ともに多く、さらなるまちの魅力向上や、誇り・愛着の醸成という観点からも、引き続き、ガンバ大阪をはじめ、吹田市が誇るトップレベルのスポーツチームとの連携を進めていくことが求められます。

○「みるスポーツ」にも対応した施設整備の推進

各施設での応援や観戦のしやすさについて満足度が低くなっています。今後の施設整備においては、みるスポーツを意識し、ユニバーサルデザインを踏まえた改良をはじめ、誰もが利用しやすく観戦しやすい環境を整える視点も大切になります。

③運動・スポーツをささえることにに関する課題

○運動・スポーツを支える人材の確保・育成

関係団体の課題認識としては、競技人口の減少や会員数の減少に加え、指導者の不足・高齢化や団体運営を行う人材の高齢化を懸念する意見が多くみられます。特に、指導者の不足は団体の活動内容や競技レベルの低下などにつながる可能性があるため、関心のある方が必要な知識や技能を身につけることのできる機会提供を進めていく必要があります。

○スポーツにおけるデジタルトランスフォーメーションの推進

近年は、ICTを活用したまちづくりが様々な分野で展開されています。スポーツの分野においても、施設利用手続きの簡素化、迫力ある観戦機会の提供など様々な活用が期待されているため、最新のトレンドも踏まえながら、その活用について検討していくことも大切です。